

**研究主題 「道徳的諸価値について、自ら考えたい！  
伝えたい！深めたい！と思える児童の育成」**

～つながりを意図した道徳教育の実践を通して～

所沢市立並木小学校

### 1 研究主題の設定理由

本校は、「自分の考えを伝えることが苦手な児童が多い」という実態から、2年前に「話し合い活動の充実」を目指して行った特別活動の研究を基盤とし、昨年度より道徳教育の研究に取り組んでいる。「考え、議論する道徳」の充実のためには、児童が道徳的価値について、「自ら考えたい！伝えたい！深めたい！」と思える授業を目指すことが重要であると考え、また、自己を見つめる時間に、児童が自身の経験を振り返ることが難しいという課題があり、多くの教育活動と道徳的価値とのつながりに児童が気付けるよう指導することで、より主体的に考えることができると考え、つながりを意図した取組を充実させる。さらに、本校の立地や特色を生かし、他学年や保護者・地域とのつながりも視野に入れつつ、小規模校であるからこそその効率的な研究、全員参加型の研究を推進する。

以上の挑戦により、児童が道徳的諸価値の理解を深め、自己を見つめることの充実が図られると考え、本研究主題を設定した。

### 2 研究の仮説

「可視化」「価値理解の発問」「つながり」の3つを柱とした道徳教育の推進をすることで研究主題に示す児童を育成することができるだろう。

### 3 研究の経過

時 期	内 容
4月	研究計画（2年目）立案
5月	道徳アンケート集計（1回目）
6・7月	校内理論研修会 県教委視察 学校公開での公開授業
8月	研究紀要原稿・学習指導案綴りの完成 中学校区研修での講演会
9月	研究紀要の発注 校内授業研究会（高学年） 親子向け講演会
10月	研究発表会（低・中・高・特） 兼 市中央地区発表（全学級公開）
11・12月	道徳アンケート集計（2回目）
1月	校内授業研究会（中学年） 家庭教育学級での啓発
2・3月	研究成果のまとめ 研究成果として実績報告書を作成

#### 4 研究の内容

##### (1) 授業者の「意図を明確にした」道徳科の授業実践

授業者の意図を、「①中心的な学習活動を通して、②焦点化した道徳的価値の理解を深め、③目指す道徳性の諸様相を育成する」という「本時のねらい」に集約し、学びのゴールとなる児童像を明確化する。

##### ① 令和6年7月2日（火）1年生の研究授業

教材名 「ノンノンだいじょうぶ」（出典：Gakken「新・みんなのどうとく」1年）

ねらい ①ノンノンが体調を崩した時に感じた日常の素晴らしさについて考える事を通して、②命があるからこそできる当たり前に気づき、③今生きていることを素晴らしいと感じる心情を育てる。



明確化した児童像に迫るための方策

- ア「可視化」 教師側の教材提示の工夫や、児童の表現方法の工夫
- イ「価値理解の発問」 多様に考える中心発問の後に、改めて道徳的価値についてじっくりと考える発問
- ウ「つながり」 教科・時間・対象等の枠を越えて関連させること

##### ② 令和6年8月26日（月）模擬授業

##### ③ 令和6年10月18日（金）研究発表

ア「可視化」

左 心情円盤を使って、心の度合いを表現する。

右 表情カードを使って心情を表現する。



イ「価値理解の発問」

教材名「大切なたからもの」（出典：彩の国の道徳（低学年）「きょうもげんきに」）

- ・発問 お母さんから自分が産まれた時のことや、自分と弟の名前のことについて聞いた春人は元気がもりもりわいてきました。みんなは、そんな春人がどう生きていったと思いますか。
- ・意図 自分の名前に込められた想いを知り、それに応えるために元気に生活し、命を大切にしながら生きていこうとする主人公の姿勢（志向性）を理解する。

ウ「つながり」

左 本校の院内学級担任が教材理解を支援する。

右 社会科「昔の道具」体験を想起して実感の伴った理解を促進する。



〈様式2〉埼玉県道德教育研究推進モデル校 実績報告書

(2) つながりを用意した道德教育を推進するための「並木小特別葉」の活用

①特別葉を作成する要点

- ア 重点内容項目を「生命の尊さ」1つに絞った上で、教科横断的につながりを見出す。
- イ 学びに含まれる「生命の属性」を考え、何を学ぶのかを鮮明にする。
- ウ 学びのゴールを想定し、「子供の姿（言葉）」で特別葉にまとめる。

【資料1】 聖徳大学名誉教授吉本恒幸様より御指導いただいた生命の属性

生物的生命		精神的な生命	
<p>「生命」の属性</p> <p>「生命」の属性について以下のように整理した。</p> <p>【1】「生命」の属性</p> <p>聖徳大学吉本名誉教授より御指導いただいた「生命の属性」を埼玉県教育局西部教育事務所 茂木指導主事から言葉の意味を付して一覧にしたものを参照。</p>		<p>発達段階に即して、「生物的生命」から「精神的な生命」へと発展</p>	
<p>可能性</p> <p>（その状態になりえる見込み、そうである見込み、何かを實現したり、何かになりたる潜在的な能力や素質。）</p> <p>限りある生命を懸命に生きることの尊さを、自らの生命の力を信じて生きぬく。</p>	<p>可能性</p> <p>（人が持つべき素質。）</p> <p>人は一人一人一つ一つが、他人を助けることにはできないという限界。</p>	<p>発展性</p> <p>（物事の勢いやかなどが進み、広がっていくこと、より進んだ段階に移ること。）</p> <p>生きることの意義を追い求めることの尊さなど、自らの生命をさらに輝かせていく。</p>	<p>発展性</p> <p>（人が持つべき素質。）</p> <p>生命は、他人を助けることにはできないという限界。</p>
<p>志向性</p> <p>（精神や意識がある目的を目標としていること、心の向かうところ。）</p> <p>生命を守りぬこうとする人間の姿の尊さなど、生命のかけがえのなさを十分に理解した状態で自らの生命の向かう先がある。</p>	<p>志向性</p> <p>（人が持つべき素質。）</p> <p>生命は、他人を助けることにはできないという限界。</p>		

【資料2】 並木小特別葉

（子供の姿で学びのゴールを想定したもの）

【資料3】 つながり表

（特別葉から本時の学びを抜き出して図示したもの）

並木小特別葉	授業構想
<p>各学習内容で取り扱う「生命の属性」を明記・学習を通して「期待する児童の姿」を各担任が記載</p> <p>本校校長の学校経営方針「子供が主役の学校」を目指し学習者の視点で授業を構想</p>	<p>授業構想</p> <p>「生命の属性」を軸とした授業設計</p> <p>「生命の属性」を軸とした授業設計</p> <p>「生命の属性」を軸とした授業設計</p>

②特別葉を活用した道德教育

学校行事から「生命の尊さ」に迫る避難訓練

将来の夢から「生命の尊さ」に迫る特活

水害の事例から「生命の尊さ」に迫る社会科

食育の視点から「生命の尊さ」に迫る特活

## 〈様式2〉埼玉県道徳教育研究推進モデル校 実績報告書

### (3) アンケートの分析による成果確認

#### ① アンケート項目

- ア 自分の命は大切だと思う → 「自己肯定感」
- イ 友達の命は大切だと思う →
- ウ 家族の命は大切だと思う →
- エ 動植物の命は大切だと思う →
- オ 生きていてよかったと思うことがある → 「自己肯定感」
- カ ゲームや遊びの中で「死ぬ・殺す」などの言葉を使うことがある  
→ 埼玉県学力学習状況調査（以下県学調）  
非認知能力「向社会性」に対応
- キ 道徳の授業で自分の考えを伝えたいと思いますか →
- ク 道徳の授業で友達の考えを自分の考えと  
比べながら聞いていますか →

規律ある態度 「話を聴き、 発表する」 に対応
----------------------------------

#### ② アンケート結果

5件法で調査、肯定的回答の合計数値の変容（上昇○維持◇低下△）

項目	R6年5月	R6年12月	項目	R6年5月	R6年12月
ア	94%	◇94%	オ	90%	△86%
イ	94%	○97%	カ	21%	○17%
ウ	98%	◇98%	キ	80%	△70%
エ	93%	○95%	ク	88%	△83%

## 5 研究の成果と課題

### (1) 成果

- ・ 児童の大幅な変容には到達しなかったが、意図を明確にした道徳科の授業や、並木小特別葉による全教育活動を通じての道徳教育の土台が築けたことが教師側の成果である。この土台の上で児童の学びを積み重ねていくことが、豊かな心の醸成につながるものと捉えている。

### (2) 課題

- ・ 学力と自己肯定感との相関が報告されているように、道徳教育においても基盤となる「自己肯定感」の醸成が重要であることがアンケート結果に表れている。道徳科の授業におけるこれまでの自己を見つめる活動に際し、「至らない自分」の自覚に留めず、「過去の至らなさに気付けた今の自分」を称賛することなどを通じた、考えたい・伝えたい・深めたいと思う児童の育成が、研究の原点であり、今後の課題である。